

# で あ い こ う か

## 父譲りのギターとともに シンガーソングライター 中村 月子さん

シンガーソングライターとして活躍中の中村月子さんは水口町出身。「甲賀忍者音頭」や「高原列車で行こう」など、甲賀にちなんだ曲で彼女の歌声をお聴きになった方もおられるのではないのでしょうか？  
地元から全国へ活躍の場を広げ、ブレイク間近の「月ちゃん」にお話を伺いました。

### ■音楽とのかかわり

音楽が大好きな一家に生まれ育ち、物心ついたときから歌っていました。

ギターを手に作曲を始めたのは小学校4年生の頃です。中学、高校は剣道部に籍を置き、趣味で続けていた音楽は「夏の音展（ナツオト）」で披露していました。家族や友人などが手作りで開催し、今夏16回目を迎える、知る人ぞ知る“祭展”です。

### ■プロへの転機、そしてメジャーへ

プロの歌手を目指したのは高校卒業を控えた頃。とあるオーディションへの出場をきっかけに道が開けました。それから2年、京都を中心にライブ活動を行ってきました。

そして今、東京へと活動拠点を移し、レコーディングやライブ活動などを行いながらメジャーデビューに向けた準備をしています。

愛用のギターは父譲り。必ずこのギターと一緒にデビューを叶えます。将来は、世界中のいろんな場所で歌っていたいなあ。



かもしか荘で6月13日に開催された「満月コンサート」。深緑に囲まれた特設ステージに彼女の透き通るような歌声が響き渡りました。

実はこのコンサートも家族や友人による企画運営。会場に詰めかけたファンの多くも、月ちゃんが小さい頃から成長を見守ってきた人たちでした。愉快で心温かな家族たちの応援を受け、20歳の挑戦は続きます。

## 一軒、二軒、もう一軒…

### はしご酒スタンプラリー

今年で5回目となる「はしご酒スタンプラリー」が6月11日、開催されました。

商工会加盟の飲食店31店舗が参加し、各店ではドリンク一杯と料理を提供。客は8人程度のグループに分かれ、3軒ずつの「はしご酒」を楽しめるという企画です。

300枚限定のチケットは発売直後に完売する人気ぶり、毎年この日を心待ちにしているファンも多いそうです。

自慢の料理とともに甲賀の地酒などが用意され、賑やかな乾杯の掛け声は一軒、二軒、もう一軒と続きました。



▲甲賀の地酒で乾杯

## 旅人の情景を偲ぶ唄声

### 鈴鹿馬子唄全国大会

第23回鈴鹿馬子唄全国大会が6月15日、あいの土山文化ホールで開催されました。

市内をはじめ全国各地から集まった一般101人、少年少女45人が自慢の唄声を披露。地元・土山の小学校児童も合唱で大会を盛り上げました。

会場を埋めた観客は、旅人が鈴鹿峠を行き交う往時の情景に心を馳せながら、じっくりと耳を傾けていました。

### 市内の入賞者

(敬称略)

- 少年・少女の部
 

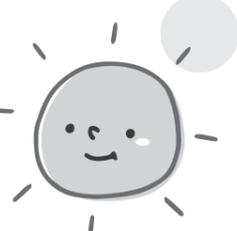
4位	小倉	朋葉
5位	瀬古	心愛
6位	小西	風道
7位	杉本	直
8位	玉井	凧
9位	岡田	護
10位	中村	菜
- 一般若年の部
 

3位	田中	千鶴
----	----	----



▲馬子唄を合唱する小学校児童

# 元気なまちかど



## 多羅尾再発見

### 多羅尾の寺小屋

多羅尾地域の歴史を再発見してもらおうと6月1日、公民館講座「多羅尾の寺小屋」が開催されました。  
14人の受講生は、歴史ボランティアガイドの鈴木義雄さんや市職員の案内により地域内の名所旧跡を巡りました。  
多羅尾代官屋敷跡では、二帯を見渡す高台に造成された広大な敷地や、残された石垣・庭園などについて説明を受け、受講生の皆さんは当時の様子に思いを馳せながら、熱心に聞き入っていました。



▲ガイドの説明に耳を傾ける受講生

## 心に響くプラスと合唱

### ユース・プラス・フェスティバル

水口ロータリークラブ主催「ユース・プラス・フェスティバル2014」が6月8日、あいのこが市民ホールで開催され、市内7つの中学校の吹奏楽部が日頃の練習の成果を披露しました。  
市制施行10周年記念事業の特別企画として、各中学校の3年生部員で構成された合同バンドによる演奏も披露され、最後は「上を向いて歩こう」の曲に合わせて全員が合唱し、満員の会場は一体となって盛り上がりました。



▲全員で「上を向いて歩こう」を合唱

## 先人の技術と文化を後世につなぐ

### 檜尾神社本殿保存修理

昨年度から解体修理工事が行われている、県指定文化財の檜尾神社（甲南町池田）で6月8日、現場見学会が開催されました。  
宝永3年（1706年）に建立された本殿は建物が傾き、木材や屋根の檜皮葺が破損したり、塗装・彩色の剥離が進んでいることから、約300年ぶりに全ての部材を解体、修理するとともに、基礎の発掘調査や耐震補強も行われ、平成28年度の完成を目指しています。  
往時の極彩色が施された本殿の鮮やかな姿を見られる日が待ち望まれます。



▶解体修理の現場を見学する参加者